

令和6年度 第1回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】令和6年10月10日（木）午後2時から午後4時まで

【場 所】豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

【出席者】（委 員） 今西 モト子 （豊田市ボランティア連絡協議会）
岩田 弘勝 （豊田市区長会）
斉藤 尚文 （中京大学名誉教授）《会長》
佐藤 優衣 （豊田学生によるまちづくり）
鈴木 聖人 （（一社）豊田青年会議所）
曾根 篤 （連合愛知豊田地域協議会）
武田 泰弘 （豊田市高齢者クラブ連合会）
田中 純子 （豊田市PTA連絡協議会）
谷口 功 （椋山女学園大学）《副会長》
藤嶋 伸一郎 （豊田商工会議所）

（出席委員:計10人）

【欠席者】（委 員） 畝部 真紀 （豊田市国際交流協会）
大河原 真吾 （あいち豊田農業協同組合）
尾原 洋子 （豊田市ファミリー・サービス・クラブ）
竹内 正美 （小原地域会議）

【付議説明者】 小船 将克 （市長公室経営戦略課 課長）
岩月 克文 （市長公室経営戦略課 副主幹）
野依 真人 （企画政策部企画課 課長）
宮川 恭子 （企画政策部企画課 副主幹）
上山 輝 （企画政策部企画課 担当長）
山田 賢 （企画政策部企画課 主査）
藤田 憲彦 （総務部行政改革推進課 課長）
尾崎 洸哉 （総務部行政改革推進課 担当長）
前田 有紀 （総務部行政改革推進課 主査）

【事務局】 塚田 良 （総務部副部長）
藤田 憲彦 （総務部行政改革推進課 課長）
尾崎 洸哉 （総務部行政改革推進課 担当長）
川勝 亜純 （総務部行政改革推進課 主査）

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 委員の交代紹介、本日の流れ
 - 4 議事
 - (1) 「WE LOVE とよた」について
 - (2) 「第2期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」2023年度実績評価について
 - (3) 第4次豊田市地域経営戦略プランの策定について
 - 5 閉会
-

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【議事】「WE LOVE とよた」について

○委員

- ・資料中の「とよたの魅力」とは何のことか。
- ・行動計画の達成率について、例えば「魅力を知る」が88%とあるが、どのように読み取ればよいか。

○説明者

- ・「とよたの魅力」は、例えば豊田スタジアムや地域のお祭りなど、人それぞれの感じ方や受け止め方がある。
- ・行動計画の達成率は、「5つの視点」に関わる市の取組について、それぞれで掲げた目標に対する実績を「達成率」と表現している。

○委員

- ・「WE LOVE とよた」の取組は何に繋がっているのか、その点を市民がどう思っているかを測るアンケートなどはあるか。

○説明者

- ・「WE LOVE とよた」が何に繋がるのかという視点では、市民意識調査に「豊田市やお住まいの地域に対して愛着を感じているか」という設問があり、動向に着目している。ただし、愛着が高まる要因は非常に様々であり、例えば、応援するスポーツチームの勝敗がそれに繋がるかもしれない。そのような中で、「WE LOVE とよた」の取組が少しでも愛着に繋がればとよいと考えているが、理念的な取組のため、愛着の指標を高めることだけを目指しているわけではない。

○委員

- ・自身もボランティア活動をしており「WE LOVE とよたフェスタ」に出展しているが、出展者に同じ顔ぶれが多く、来場者も関係者が多いと感じる。実行委員には新しいメンバーが入ることも大切。関係者だけではなく、転入者等も参加しやすく

なるとよい。

○説明者

・「WE LOVE とよたフェスタ」は、市民が主体となって実行委員会を組織し、豊田市も共催という形でバックアップしている。その実行委員がイベントの内容、参加者の募集、楽しみ方などを協議しながら企画しているが、実行委員会の中でも担い手確保が課題のひとつとして挙げられている。ご意見として伝えていきたい。

○委員

・「WE LOVE とよた」はスローガンであり、つかみどころがない。様々な取組の結果が市民にどう広がったのかわかりにくい。市民や行政など「誰が」を整理するとわかりやすくなるのではないか。

・「WE LOVE とよた」条例について、まちづくり基本条例や市民活動促進条例との違いを市民や企業に伝わっていないのではないか。

○説明者

・市の様々な取組のうち「地産地食の推進」を例に挙げる。地元の食材を扱う店舗に市職員が伺い、地産地食応援店に登録していただければ「WE LOVE とよた」のロゴマークの入ったのぼり旗等を設置してもらっている。市民がのぼり旗を見れば、これも「WE LOVE とよた」の一環だと認知することに繋がっている。このような様々な取組が市民にどの程度伝わっているかを確認する趣旨で、「WE LOVE とよた」意識・行動調査を実施したところである。

・「WE LOVE とよた」条例は、第8次総合計画においては、様々な施策を横串に刺した根底となるものと位置づけており、SDGsとともに行政の土台となる理念として整理している。

○委員

・横串ということで理解した。「WE LOVE とよた」があるために、個々の条例の意義がわかりにくいという市民や企業もある。「WE LOVE とよた」は横串的な土台であることを、もう一度認識してもらえるとよい。

○委員

・「WE LOVE とよた」に関する市民意識・行動調査について、「WE LOVE とよた」の言葉を「知っている」は約82%だが、もっと高くてもよいと感じる。

・また、「行動している」が約23%と低いが、「WE LOVE とよた」が大きすぎてぼんやりしているため、それぞれの行動が「WE LOVE とよた」に関連しているか判断が難しいように思う。

○説明者

・ご意見のとおり調査結果を受け止めている。「行動していない」と答えた人の中にも、実は行動しているが意識していないという方もいると思う。

・今後は、押し付けにならないよう注意しながら理解促進を図るとともに、仮に理解がなかったとしても、「WE LOVE とよた」というワードが、地元を大切にする

ことや、地域に目を向けるといった意識の醸成に繋がっていくことを目指していく。

○委員

・「WE LOVE とよた」というスローガンを、具体的にどういう方向性にしていくか、どのように可視化していくか。例えば、学生の中で地域に関わる人が「WE LOVE とよた」を言葉にして語れるようになるまで踏み込めると、実体として「WE LOVE とよた」のスローガンが体现されるのではないか。

○説明者

・ご意見のとおり、「WE LOVE とよた」の具体的行動の例をみなさんに知ってもらい、その理解の輪を広げていきたい。5つの視点を軸として、工夫しながら取り組んでいきたい。

【議事】「第2期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」2023年度実績評価について

○委員

・F I A世界ラリー選手権の開催に多額の税金がかかっている中、他事業の予算措置に影響はあるのか。

・あと10万円の予算が付けば、より良い効果を発揮するという事業もある。市民感覚として、「WE LOVE とよた」に資する事業なのに予算がつかないことにどう説明するのか。

○説明者

・全くない。事業については、一件ごとに査定をしながら必要性を判断している。合理的な理由があれば予算措置される。

・市民がやりたいからやるのではなく、豊田市にどのような効果があり、どうまちづくりにつながるのかといった広い視点で考えている。

○委員

・昨年度、F I A世界ラリー選手権が開催されたが、地元には何も残っていない。

・豊田スタジアムの芝を張り替えるのに多額の税金を投入しているが、どう考えているのか。

○説明者

・確かに開催に多額の支出があるが、市内での宿泊・飲食など全体の経済効果はプラスだと思っている。

・初めての市主催の大会であり、安全に開催することを第一に考えていたため、

まちづくりの視点は弱かった。

- ・ 今後は、特に山村地域のまちづくりに生かしていきたい。大会が開催されていない時にも本市に足を運びたくなるよう、観光業などが活性化するといい。
- ・ まち全体としても、「ラリーの豊田市」と言ってもらえるよう、クルマのまちのブランドを発信し、多くの方に訪れてほしい。

○委員

- ・ 新型コロナウイルスの影響で指標の進捗が思うように進まなかったとあるが、そこから何を学んだのか。次の戦略にどう生かしていくのか。

○説明者

- ・ 人々の外出機会が減っただけでなく、市民の意識や感覚が大きく変わった。市が主催するイベントや行政サービスなどでも、デジタルを活用しながら多様なニーズに柔軟に対応していく必要があると考えている。
- ・ 第9次豊田市総合計画の策定を進めているが、先が見通せない中、施策や事業を毎年見直ししながら推進していこうと考えている。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で市民の活力も低下している中、チャレンジの視点を持ちながら、新しいことに取り組んでいきたい。

○委員

- ・ 地域によっては、バスが通っておらず、周りに商店もなく遠くまで買い物に行かないといけな地域もある。
- ・ こどもを産み育てる環境は何も変わっていないように感じるがいかがか。

○説明者

- ・ 地域交通については、共助の仕組みをいかに構築するかが重要だと思っている。バスの乗客者も減り、運転手も減る中で税金を効率的に使えるよう、バスだけでなくタクシーの活用や、地域でカーシェアをするなど、地域住民の選択肢を増やせるよう取り組んでいきたい。
- ・ 商店については、人口が減ればサービスも低下することは当然だと思っている。そのためにどう支援するかは、引き続き課題として検討していきたい。

○委員

- ・ 参考資料3の「映画を活かしたまちづくり事業」について、DVDの無料貸出が6校だけではもったいない。うまく活用してほしい。

○説明者

- ・ 担当課に共有する。

【議事】第4次豊田市地域経営戦略プランの策定について

○委員

・第9次総合計画は、何歳を対象にして作っているのか。75歳以上にチェンジチャレンジと言うのはどうか。お年寄りに優しい言葉ではない。

○説明者

・総合計画は全市民が対象となるが、第9次総合計画は、子どもにクローズアップをしているのが1つの目玉であると考えている。こどもや若者に光を当てているが、高齢者を排除しているわけではない。

・総合計画でチェンジチャレンジというキーワードを使っているので、このプランでも記載している。

○委員

・取組方針2「「豊田市らしさ」にこだわりを持ち、まちへの愛着や誇りを育む」は、ヒトモノカネなどの資源にどのように結びついていくか。具体例があれば。

○説明者

・取組方針2は、資源を使って実施する事業のクオリティ向上の視点で記載している。

○委員

・取組方針2「「豊田市らしさ」にこだわりを持ち、まちへの愛着や誇りを育む」をどのように浸透させていくのか。ぼんやり投げかけても職員も困るのでは。

・職員は既に豊田市らしさを意識している印象がある中で、更に何ができるのか疑問があった。あえて記載することが気になった。

○説明者

・自分の業務に関することだけでなく、広い視点で豊田市らしい取組、事業を理解し、人に話せる職員であること、という意図で記載している。

・豊田市の魅力について、職員1人1人の考え方や思いの強さは違ってくる。改めて、豊田市らしさにこだわりをもってもらいたいという思いから、取組方針に記載している。

○会長

・取組方針1「常に課題意識を持ち、改善に取り組むことで事業・事務の適正化を図る」、2「「豊田市らしさ」にこだわりを持ち、まちへの愛着や誇りを育む」、3「官民連携・共働の推進により資源の幅を広げる」はつながっているのだなと

思う。

○委員

- ・第3次のプランはどのような検証がされたのか。

○説明者

・詳細の検証には至っていないが、毎年進捗を確認している。DXの取組は、別の計画で取組を進めていくため、新プランの取組方針には記載しないこととした。共働・官民連携について新プランでは、共働を強く押し出すよりも、新たな官民連携のあり方を探るという方向に比重を置きたい。行財政改革は引き続き実施する。

○委員

・取組方針1の中の、「業務の目的や課題を意識し、「止める」「減らす」「変える」の順で改善に取り組む」について。止めるというのは、減らすより数十倍のパワーが必要。

・契約事務にあたり、豊田市は他市に比べて資料が多すぎて細かいから対応が遅いと聞いている。必要ないものを簡素化できないか。他の市町村では要らない資料を、豊田市は必要だと言う。もっと効率化できる。中身を検証し、その後誰も見ていないというような資料があれば、是非止めてもらいたい。

○説明者

・契約関係でなく、全庁的な課題でもあると考えている。DXの推進と合わせて、指摘いただいた事項の見直しに早く着手できるよう努力する。

○委員

・行財政改革について。市の職員の仕事が多すぎるのではないかと思う。なぜかという市民の要望に全て答えようとしている。豊田市のいいところであると思うし、いいまちだと思っているが、人口減少が進み、若い人が少なくなってくると、今の規模が維持できないことは目に見えている。どこをどれくらいの及第点に抑えていくかは、はっきりやっていかないと職員も耐えられず、財政もひっ迫する。色々な意見を聞くことも素晴らしいが、信念を持ってやる必要がある。全体を俯瞰し、横軸で物事を見る視点が機能として備わっているとよい。改善の取組においても横串を指す機能やチームを作るとより良いのでは。

○委員

・高齢者クラブは理事が中学校区ごとに28名いて、毎月理事会がある。理事会を市の取組などを宣伝する機会としても利用してほしい。

○説明者

- ・そのような場をうまく活用したい。

○委員

- ・こどもを相手にするボランティア活動をしている。最初は気軽に始めたが、今は、事業の企画や大人との調整など貴重な経験ができている。そのような場を、他の人にも広めたい。市からもこういった活動があることを学校等に情報提供してほしい。

○説明者

- ・市としても学生との連携は重要だと認識している。第9次総合計画をこども起点で推進する中で、学生の皆さんとも一緒に取り組んでいきたい。

○会長

- ・学生は所属するゼミや先生の方針によって、取組の参加しやすさが異なると思うが、現場に出てくると学生同士の交流も生まれる。

○委員

- ・新城市は中学生高校生若者会議という、若者が行政の制度設計に関わる仕組みがある。こどもが何かやりたいと思ったときに申請できる仕組みもあるとよい。小学生、中学生の起業家支援など。豊田市もこどもが行政に関われる仕組みがあっても良いと思う。

○説明者

- ・本市のこども若者部が実施するこども会議では、こどもとコミュニケーションをとりながら豊田市についてディスカッションしている。他市のよいところは取り入れていきたい。

○委員

- ・大人や行政の覚悟は必要であるが、もう少し、こどもが主体でできる取組があればよいと思う。

○委員

- ・取組方法1「常に課題意識を持ち、改善に取り組むことで事業・事務の適正化を図る」について。こどもは、力のあるこどもばかりではない。中学校を卒業すると一旦進学や就職をするが、家庭環境が複雑なこどもは、学校をやめたり、会社をやめたりして、家にひきこもってしまう。ひきこもる家もないこどももいる。声を上げづらいこどももたくさんいる。支援が必要なこどもをひろいあげる仕組みがあれば良いと思う。学校はこどもの様子に気付いているが、卒業すると見守りが続かず、切れ目ができてしまう。地域で見守れるように子ども食堂、学

習支援を立ち上げた。こどもが安心できる居場所を作りたい。例えば、家に帰れないこどもが住むことができる自立支援施設があるとよい。そこで力を蓄えて、自立に向かわせる。そういった部分に課題意識を持っていただきたい。今回、こども若者にやっと光が当たってきたと感じ、期待している。こどもが安心して過ごせるような仕組みを作ってもらいたい。

○説明者

・福祉部やこども若者部にも情報共有しながら、どんなこどもも豊田市に住んで良かったと思えるまちづくりを目指していきたい。